

DX推進の道しるべ 実施前に考慮すべき 6つのステップとは？

本資料では、デジタルトランスフォーメーション（DX）の実施を前に、重要な考慮事項となる6つのステップについて解説します。適切な準備と計画を行うことで、組織はDX実施においてリスクを最小化し、目標達成に向けて確かな一歩を踏み出すことができます。的確なプロジェクト計画立案や戦略策定を行うことで成功への道を切り拓くことができます。

DXの現状が抱える課題ポイント

貴社のDX施策を「**DXを始めたい！データ活用を始めたい！**」と漠然と進めていませんか？

これまで企業では、**各事業部や拠点ごとの各業務最適化**の観点でシステム導入行われてきました。別々のシステムを導入し、データ所在や形式が統一化はされておらず、データが必要になったときに収集・加工を繰り返す為、**活用すべき貴重なデータを連携することが困難**でした。

世間を見ると、DX＝「可視化」「AI」と推進を進めていますが、**DXの原材料である“データ”の理解・整理**ができていない状態で進める企業が多く「思うようなデータ活用の効果がでていない」と嘆いているのが現状です。

それでは、DX推進に思い悩む企業と成功する企業は、具体的に何が違うのでしょうか？
その鍵は6つのステップにあります。成功している企業は、この6つに注力し対策をとっています。



DXを成功に導く6つのステップ

バランスの取れたステップで実現！必須の6ステップとは？



自走を支えるデータマネジメント基盤 Denodo Platformのご紹介



データ仮想化は、論理的なデータレイヤーを構築することで開発を効率的に行えるだけでなく、データガバナンス・メタデータ管理にも有効です。データ仮想化市場のリーダー、Denodo Platformの特徴をご紹介します。



論理データレイヤ

データを物理的に複製することなく、仮想的にデータへアクセスする事が可能。データの管理や配信管理を行う総合的なプラットフォームとして機能します。



データ統合

データの形式、場所に関係なく、すべてのエンタープライズシステムにまたがるデータを統合することで、データ分析基盤として活用することができます。



データ管理

統合されたデータとその関係をカタログ化、検索、検出、および管理するための一元化された安全なレイヤを提供します。



リアルタイム配信

ビジネスユーザーが使用するアプリケーションに統合されたデータを鮮度良く、リアルタイムで配信します。

6ステップの進め方、Denodoに関するお問合せは**NSW** へご相談ください